



遊 休農地は宝の山？

～荒れ地からはじめる農業革命～

「遊休農地とは？眠っていた土地の可能性」

山形県内には、かつては耕作されていたものの現在は荒れている「遊休農地」が多く存在する。その背景には後継者不足、都市部への移住などによる耕作者の不在がある。一方、こうした農地は、農業者をはじめとする地域の関係者が協力して周辺環境の整備や土壌改良を進めることで、再び生産の場として活用することができる。

今回は、一見条件不利に見える遊休農地をチャンスと捉えた農業者を紹介する。

「宝の山」に変わる遊休農地

寒河江市に拠点を置く株式会社アンスリーファームは、遊休農地を活用し果樹栽培を中心に事業規模を拡大している企業のひとつだ。

代表取締役である安達史倫あだちしゆんさんは、もともと飲食業界にいたが、就農人口が減少していることや収益性が低いことにより、農業が敬遠されている状況を知り、「農業の現状を変えたい」と地元仲間とともに一念発起して就農。しかし、農業を始めた当初は条件の良い耕作地が確保できず、やむを得ず借り手のいない遊休農地を借りることになった。そこで安達さんは、その状況を逆手にとり、農地の整備と併せて、新品種の改植や栽培技術の研究を進めた。その結果、県のさくらんぼ品評会で最高賞にあたる農林水産大臣賞を受賞。その高い評価が信頼を呼び、遊休農地以外の農地の管理もお願いされるようになった。

現在では、さくらんぼを含めた果樹の生産面積は約20 haにまで広がり、そのうち2〜3割が元遊休農地。まさに、遊休農地が「宝の山」と呼ぶにふさわしい価値ある資産に生まれ変わっている。

「遊休農地の再生まで（イメージ）」



③ 定植（新たな苗を植えて）



① 現状（放置された農地）



② 伐根（根を取り除く）



④ 収穫（立派な果実へ）

実がなるまで約5年。
成木まで10年。

重機を使って徹底的に！

「安達さんに聞く、遊休農地活用の利点と展望」

「遊休農地活用のメリットは何ですか？」

収益性の高い品種・品目への転換がしやすい点です。例えばさくらんぼは、近年の高温による不作へ対応するため、高温に強い品種や、さくらんぼ以外の品目へ植え替える判断が求められています。

既存農地の場合は、すでに収益を上げている樹を伐採する必要があるので、品種転換の決断は容易ではありませんが、遊休農地にはその制約がないため、新品種の試験栽培や育成に積極的に取り組むことができます。

「デメリットや課題はありますか？」

再生までに時間と労力がかかる点です。樹木が枯死していたり、土壌の劣化が進んでいる場合が多く、整備や改善の作業が必要になります。また、更地に戻したうえで定植する場合、収益化までには年単位の期間を要します。

「今後の展望や地域への思いについて教えてください。」

日本一の生産面積を持つ果樹園を目指しています。地域の農地を再生・活用することは、単なる経済活動にとどまらず、自然や暮らし、未来を守る活動だと考えています。生まれ育った地域を魅力ある地域として次世代に渡していきたいです。

(株) アンスリーファーム
代表取締役 安達史倫さん

(株) アンスリーファームの情報はこちらから HP: <https://anthreefarm.com/>

9

8